

令和4年度 入学式式辞

甲山の新緑が輝きを増し、すがすがしい風が六甲山系を吹き抜ける今日の佳き日、兵庫県立西宮甲山高等学校第40回入学式を挙行できますことは、本校にとって、この上もない喜びとするところです。

新型コロナウイルス感染症がいまだ収束しない中、この会場でご参列いただける人数を制限し、時間を短縮するなど今年度も例年とは異なる形で入学式を挙行することにいたしました。そのような中、PTA会長西田様をはじめ、多数の保護者の皆様のご臨席を賜り、令和4年度の兵庫県立甲山高等学校第40回入学式を挙行できますことに、本校の教職員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

先ほど入学を許可しました148名の皆さん、入学おめでとうございます。今日から皆さんは、西宮甲山高校40回生として本校で学ぶことになりました。本校は「森の学校だからできることがある」「小さな学校にしかできないことがある」のスローガンの下、自然豊かなこの環境を生かして、様々な教育活動を展開しています。

さて、本校は校訓である基「己を究め ふれあいのなかに 明日を拓く」を礎にして教育活動を行っています。入学するにあたりその基に沿って皆さんに私から伝えたいことをお話しします。

1つ目は「己を究め」です。ニュースでも知っていると思いますが皆さんが高校3年生になって18歳の誕生日を迎えたとき、成人になります。お酒やたばこ、ギャンブルなどは20歳までできませんが、クレジットカードを作ったり一人で契約をできるようになったりします。同時に保護者に守ってもらえなくなり、自己の責任が重くなります。だからこそ、己を究めることは大切です。成人になるその日までに、自己で責任を取ることができ、大人として振る舞えるように自己を磨いてください。具体的にどうしたらよいか。まずは、自分の考えや行動が正しいのか振り返ることが大切だと思います。他の人の考え方や言動も参考にすると良いと思います。正しいことは一つとは限りません。自分だけが正しいということは滅多にありません。自分も正しいけれど、他人も正しいということも多いです。もちろん自分が間違っていることもあります。間違いに気づくことは素晴らしいことで、自分を責めることはありません。間違ったあとにどうするかが大切です。それから、間違いや弱みばかりに目が行く人がいます。人には必ず良いところがあります。それを見つけて、そこを伸ばすようにすることも大切です。自分を振り返ることを教育学や心理学の用語ではリフレクションと言います。日本語では内省と訳されたりしますが、良いところや強みにも目を向けるところが、反省とは違うところです。高校生活を送る上で、このリフレクションを心がけて皆さんが成長することを期待しています。

2つ目は「ふれあいのなかに」です。高校には当然いろんな人がいます。気の合う人、合わない人いろいろでしょう。時には何気ない一言や行動で傷ついたり、逆に傷つけてしまったりすることがあるかもしれません。ふれあいの中では避けて通れないことだと思います。

まず、人を傷つけないようにするにはどうしたらいいか。他の人のことを尊重し、他の人の意見や考え方を理解し、たとえ自分と考え方が違って中傷したりしないことではないでしょうか。時には、他の人の意見や考え方で、自分の意見や考え方を修正することもあるでしょう。もちろん、周囲に迎合するということではなく、必要なときは自分の意見や考え方を伝えることも大切です。次に、傷ついてしまった場合はどうでしょうか。対処方法はいくつかあります。一つは、「耐えがたいものとしてとらえないようにする。」ということです。普通多くの人は、「耐えられない。」と思っても結果的に耐えられていることがほとんどです。命まで奪われることはないからです。仕方なく、かもしれませんし、時間がかかるかもしれませんが。結果的に耐えられることが多いなら、はじめから「耐えられる。」と自分に言い聞かせると、ストレスをやり過ぎやすくなります。他にもいくつか対処法がありますが、このような対処法はレジリエンスという言葉につながります。レジリエンスは「復元力」や「精神的回復力」などと訳される言葉です。高校生活を送る中で、傷つけ合うことを恐れずに、ふれあってほしい。その中で万一傷つくことがあれば、その時は復元力を学び、身につけてほしい。苦しいときは誰かに相談しながらでも、もちろんかまいません。誰だって傷つくことは嫌だけれど、高校時代に一切傷つくことなく大人になると、大人になってから傷ついたときにダメージが大きくなります。ワクチンと似ています。高校時代に傷つくことはワクチンみたいなものです。副反応があって苦しいかもしれませんが、後でウイルスに感染したときに発症や重症化を防ぎます。高校時代に傷ついておけば、大人になって本格的に大変なことがあっても、きっと乗り越えられます。ふれあいを大切にするということは、他者を尊重することであり、傷つくことを恐れないことであり、そして自分を大切にするということでもあると思います。少し難しいですが、高校生活を送る中で学んでいってもらえたらと思います。

3つめは「明日を拓く」です。

今、世の中は新型コロナウイルス感染症があり、ウクライナではロシアの侵攻によって多くの人が亡くなっています。また、南海大地震がいつ起こってもおかしくないなどとも言われています。疫病や戦争、大規模災害、これからの時代はいつ何が起きるか予測できません。私の上の世代の人は戦争を経験し、住んでいた町が焼け野原になり、何もかもなくしてしまいました。そんな上の世代の人がよく言っていたことばは、戦争や災害は一瞬で多くの財産を奪ってしまう。しかし、生きてさえいれば、奪われないものがある。それが頭の中の知識や考える力だ、ということでした。それがあったから、日本は第二次世界大戦後、復興できたのだと思います。皆さんは、本校で学ぶことによって、たとえ戦争や大規模災害が起こったとしても、そこから立ち上げられる力をつけてほしい。他者を尊重して協力しながら、新しい世の中を作る力をつけてもらいたいです。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。さて、高校生活3年間には、いろいろなことがあります。悩んで家で泣いている、先生に叱られて家でむしゃくしゃして、保護者の皆さんに愚痴を言う、などということがもしかしたらあるかもしれません。悩

んだり、困ったりするから人は成長するのです。特に高校生はなおさらです。どうかそんな時には、生徒の話を聞いてあげてください。ただ気をつけていただきたいのは、多くの場合、生徒は誰かに聞いてもらえば、すっとしてしまうものです。ところが、そこで保護者の方がそれは大変だと大げさに反応してしまうと、生徒も聞いてもらえればすっとしていたようなことも大きなことに感じてしまって、余計悩んでしまうことがあるのです。共感して生徒の話を聞いてあげるだけで多くの場合は大丈夫です。先ほど申したように、成人になるまでにできるだけ、一人で問題を解決する力をつけてもらいたいです。ただ、もし心配なこと不安なことがあれば、いつでも担任までご連絡ください。

本日入学された生徒の皆さん全員が、本校の3年間で大きく成長し、社会で活躍できる人となって卒業していくことを祈念し、式辞といたします。

令和4年4月8日

兵庫県立西宮甲山高等学校長 早川 千也